

教職課程年報第3号の刊行にあたって

堤孝晃（八千代キャンパス教職課程専門委員長）

ここに、東京成徳大学教職課程年報の第3号を刊行いたします。玉稿をお寄せいただいた執筆者のみなさま、また刊行に向けてご尽力くださいましたみなさまに、心より感謝申し上げます。

本号には、福祉、文学、経済学、実践報告と、多様なディシプリンをもとにする諸論稿が集まり、教育という事象が、さまざまな隣接領域との密接な関係性の上で成立するものであるということに、改めて思い至らせるものとなりました。

なかでも、本年報として特筆すべきは、論文「医療的ケアが必要な未就学児と保護者の社会資源の利用実態とニーズ——保育園への利用ニーズを中心に」です。これまで調査が不足してきた、医療的ケアが必要な児童の就学前の環境についての貴重な調査をもとにしたものであり、今後の議論の重要な嚆矢となる知見を含んでいます。本論文は、本学教職課程で教職免許を取得した卒業生である伊藤瑚乃美氏が、別府さおり氏とともに、ご自身の平成29年度卒業論文をもとに執筆したものです。卒業論文は、大学における学生の勉学・研究の集大成であり、重要な発見が含まれるものも少なくありません。しかし、その多くが日の目を見ることなく埋もれてしまうのが現状です。今後、学生たちの貴重な研究成果がより適正に世に問われることが望まれるなか、そのひとつが本年報を通して論文として公表されることは、本学全体および教職課程にとっても大変喜ばしいことです。この意味でも、本論文は意義深いものといえます。

編集を行っているいま、Covid-19の蔓延で日本社会にとどまらず、世界に大きく動揺が広がっており、終息が見えません。臨時休校等、日本の教育への影響も大きく、今後のあり方に大きな不安が残ります。無論、本学教職課程へも大きな影響が生じ、各所が対応に四苦八苦しているなか、ご対応くださいましたみなさまに感謝申し上げます。

2020年3月